

2. 地球温暖化防止対策の一つ、3R活動について

奥備一彦

(1) 地球温暖化の原因

去年は春先から真夏日が多く、早い夏の到来に加え、炎暑が続いた。北関東はこれほどまでに経験したことのない竜巻に数回も見舞われ、被害の甚大さに息を呑んだ。私の知合いの宇都宮近郊の梨農家もりんご農家も果樹の花つきが例年になく早く、品種によっては甘味も薄く不出来であった。これらは共に地球温暖化がもたらす異常気候の所為であるのか。

太陽からエネルギーを受けた地表が、同量の熱を赤外線として宇宙に放射することで大気の温度はバランスを保っている。しかしこの赤外線を吸収するガス(温室効果ガス)の濃度が高まると気温が上昇する。これが地球温暖化のメカニズムである¹。

温室効果ガスは、主に「二酸化炭素(CO₂)、メタンガス、一酸化二窒素...」であり...温暖化にどのガスがどのくらい影響を及ぼしたか...を見ると、二酸化炭素が63.7%、メタンが19.2%、一酸化二窒素が5%...である。日本では、二酸化炭素が93.7%と圧倒的に多い²である。

言うまでもなく、二酸化炭素は、人々の日々の営みが最大の排出源である。産業革命と期に人々の生活は贅沢になり、特に20世紀後半は、欲望と新技術が手を取りあい、資源の消費を拡大したため二酸化炭素の排出量は急増した。そして「現在の排出量は産業革命以前に比べて4割弱も増え³」「わが国では20世紀中に平均気温が1°C上度し⁴」たという。

国連の気候変動に関する政府間パネル(IPCC⁵)の2013年9月の報告では「二酸化炭素の排出量が急増すると、今世紀末には世界の平均気温は最大4.8度上昇し...海面上昇などで、アジアを中心に数億人が移住を余儀なくされ、...農産物の生産量が減り、食糧問題が深刻化する...貧困の拡大などにより、紛争のリスクが高まる⁶」と警告している。

地球温暖化防止の主要な対策は二酸化炭素の排出を人々の生活の中でいかに少なくするかとすることになる。

(注) 1. 『現代用語の基礎知識』2013「温室効果ガス(GHG)」P156.

2. 日引聡・有村俊秀著『入門環境経済学』2002.7.15. pp171~172 中公新書.

3. 上記1に同じ

4. 上記1の「地球温暖化」P155

5. Intergovernmental Panel on Climate Change.

6. 朝日新聞 2014.1.8付「温暖化で数億人移住必要」

(2) 宇都宮市の3R活動

宇都宮市も資源を大切に使用することが二酸化炭素の排出量を抑制することに継がるとして全市あげて3R活動⁷⁾に取り組んでいる。主幹部署は文字通り「環境部ごみ減量課」である。

平成14年度に「リサイクル推進委員制度」を発足させ、全市政と網羅する39の連合自治会に「リサイクル推進協議会」と設置させた。各協議会は単位自治会⁸⁾からの1~2名の委員で構成され、委員には市長名で委嘱状が交付される。会の目的は「地域の連携を保ちながら、ごみ問題とリサイクル意識の啓発・普及を通して、ごみの減量化及び資源化並びに環境美化の推進を図る」としている。

(平成19年度に)

私が住んでいる石井地区では「石井地区リサイクル推進協議会」(構成:単位自治会22、委員25名)が発足した。私は平成22年度に当協議会の会長と受け今日に至っている。以前から二酸化炭素の発生を少なくするには3R運動が不可欠と心得ているので、会員の知識修得、地域住民への情報伝達と意識の向上、そして住民協力の拡大を目指して活動を続けている。具体的には
①ごみ焼却工場・リサイクル施設の見学 ②講師による推進委員研修会 ③単位自治会での住民講習会 ④秋まつりでの分別ゲーム ⑤ごみステーションのパトロール
以上は毎年1回以上実施。更に啓発ポスター⁹⁾の作成とごみステーション等での掲示、「3Rで愉快な宇都宮」のロゴ申請・取得、それと付けた白いジャンパーの製作と各推進委への配布と着用等も実施した。

(3) 3R活動の更なる進展を妨げるものは何か。

石井地区内の住民の3Rに関する意識は少しずつ向上しているように思われる。分別もかなりきちんと行われ、ごみステーションもきれいに使用されている。

宇都宮市全体ではどのような結果になっているのであろうか。市議会議員で行われた報告会の資料によると、焼却ごみの排出量は平成17年度18.2万トンをピークにして毎年減少し平成22年度には14.2万トンまでになった。しかしその後は漸増し平成24年度は14.6万トンに悪化した。これに対し、市の分析は「資源物の搬入量は減少している。(資源物が焼却ごみに混入され)分別意識の希薄化による分別協力度の低迷などが主な要因であると考えられます。」としている。

(注) 7. 3Rとは廃棄物の発生抑制 Reduce, 再利用 Reuse, 再生利用 Recycle の頭文字をとったもので国際的にも推進する取り組み

8. 各連合自治会を構成する基礎自治会のこと。2013年12月31日現在 宇都宮市全体で787在り、自治会加入率は68.0%である。(2014.1.15:宇都宮市自治会連合会にヒアリング)

9. 「ペットボトル5本分でポリエチ混紡のワイシャツ1着」、「牛乳パック5~6枚でトイレットペーパー²³⁾」
例えば、ペットボトルのリサイクルは、ワイシャツの原料となるポリエチレンまでの製造工程(石油採掘→輸送→精製→ポリエチレン製造)が必要なくなり、石油資源の節約とエネルギーが削減される。

10. 平成24年度まちづくり組織「環境・リサイクル推進委員会活動報告」(平成25年2月18日)

私は次の通り 2つの点を指摘したい。

→は、構造的な問題である。リサイクルによりどれだけ資源が節約されたのか、エネルギーの使用量の減少より二酸化炭素排出をいくら抑制できたのか。また、焼却ごみの減少は、その収集費、処理費、設備費などに好影響を与える結果税金がいくら節減できたのかと市民は知りたい。しかし成果情報を得にくい活動は、ある程度を超えては進展を期待するには無理があると思う。

→は、「石井地区リサイクル推進協議会」の活動から言えることであるが「互酬性の規範」が足りないことである。①役員はほぼ全員が熱心に役目を果たすので会としての活動はできるが、委嘱状をもらって委員の内の3割の人は講習会にも施設見学会にも参加しない。その理由を質すと答えは流石で「忙しい」「忘れてた」といっても同じ人が言う。②一般の住民の中には「ごみの分別や集金は市役所の仕事だ。俺は税金払ってるんだから、その分でやればいいんだ」と思っている人が多く、中には口に出して大声で言う人もいる。③近所の「きあい」は煩わしいので自治会に入らない人、或いはアパトの居住者の多くが自治会に入っていない。彼らには情報が届きにくい。

見ず知らずの人への「信頼」、「お互い様」という互酬性の規範は、2011年3月11日の東日本大震災で示された。この日本人の行動は世界から驚きと賞賛の目で見られた。しかし上述の通り、平時の日本では未だ、自己中心の考えや損得勘定が先にたってしまう。互酬性の規範は薄いのであろうか。少子高齢化、税収の減少が目前に迫っている今、個人主義・市場主義だけの価値判断からの転換が急がれる。